

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：34423

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K04607

研究課題名(和文) 公立高等女学校の同窓会組織にみる「教育事業」活動に関する研究

研究課題名(英文) A Historical Study on the Activities of Educational Projects in the Alumni Organizations of Public Girls' High Schools

研究代表者

土田 陽子 (Tsuchida, Yoko)

帝塚山学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：30756440

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はこれまで注目されてこなかった公立高等女学校の同窓会組織が行っていた「教育事業」活動に焦点を当て、「教育事業」活動が全国レベルでどのくらいどのように行われていたのか、それらが戦後どのような形に変容したのか、について1920年代～1950年代の期間を対象に調査・検討した。その結果、戦前から戦後改革期に「家政系学園運営」「幼稚園・保育園運営」「私立高等女学校設置・運営」「女子専門学校設立運動」が行われていたが、それらのほとんどが戦後廃止されたことが把握できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、公立高等女学校卒業生たちが「良妻賢母」としての生きる以外に、いかにして主体的に「女性たちが学ぶ場、活躍の場」を作り上げ、そしてそれらが戦後どのように変容したのか、戦前～戦後の社会状況と教育政策との関連から考察しようとしたものである。これは学校教育とジェンダーの問題をあらためて歴史的に捉え直す作業であり、この点において本研究は学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the "educational activities" conducted by the alumni associations of public girls high schools, which have not received much attention so far, and examines (1) how and to what extent the "educational activities" were conducted at the national level, and (2) how they were transformed after the war. As a result, it was found that from before World War II to the postwar reform period, "operation of domestic science schools," "operation of kindergartens and nursery schools," "establishment and operation of private high school for girls," and "movement to establish women's vocational schools" were conducted, but most of these were abolished after the war.

研究分野：教育社会学 歴史社会学

キーワード：公立高等女学校 同窓会組織 教育事業 ジェンダー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

公立高等女学校の同窓会組織を分析対象とした研究には、クラス会開催に象徴される「思い出共同体」や「卒業生ネットワーク」に着目したものがわずかに存在するだけで非常に手薄な状態である。

研究代表者はこれまで県立和歌山高等女学校を事例対象として、多様な一次資料から地方都市の公立名門高等女学校の表象と実態の解明に取り組んできた(『公立高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造 学校・生徒・メディアのダイナミズム』ミネルヴァ書房 2014年)。この研究過程で明らかになったのが、公立高等女学校の同窓会は親睦を深める活動以外にも様々な活動を行っていた事実であった。また同校と京都府立京都第一高等女学校の比較研究(「公立名門高等女学校の同窓会誌に見る『あるべき女性像』 - 県立和歌山高等女学校と府立京都第一高等女学校の比較分析から」京都大学 GCOE Working Paper 2012年)では、公立名門高等女学校の同窓会組織は地域の有力女性団体として活発に活動を行っており、その活動には先行研究で注目されてきたクラス会等の「親睦」活動の他、「社会奉仕」活動、「母校支援」活動、そして本研究が注目する「教育事業」活動があった。「教育事業」活動には、「女子専門学校」設立運動、「家政系学園」運営、「幼稚園・保育園」運営があった。これらの活動はいずれも女性役割と関連の深いものであったが、同窓会員である女性たちが運動や学校運営に携わっていた点に大きな特徴があった、という共通点を指摘することができた。

とくに述べたような「教育事業」活動は男子中等教育機関の同窓会では見られず、女子教育機関独特のものである。にもかかわらず、これまで研究対象として取り上げられることはなかった。公立高等女学校同窓会という女性組織が「教育事業」を運営していたという事実を掘り起こし、整理・検討・考察する価値は十分にあると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、これまで注目されてこなかった公立高等女学校の同窓会組織が行っていた「教育事業」活動に焦点を当て、「教育事業」活動が、全国レベルでどのくらいどのように行われていたのかを調査し、戦前(1920年代)から戦後(1950年代まで)において同窓会組織が果たした社会的役割と意味について考察することを目的としている。なかでもとくに、同窓会員たちがいかにして「女性たちの学ぶ場、活躍の場」を作り上げ、それらが戦後どのような形に変容していったのか明らかにすることで、学校教育とジェンダーの問題をあらためて歴史的に捉え直すことを目指した。

3. 研究の方法

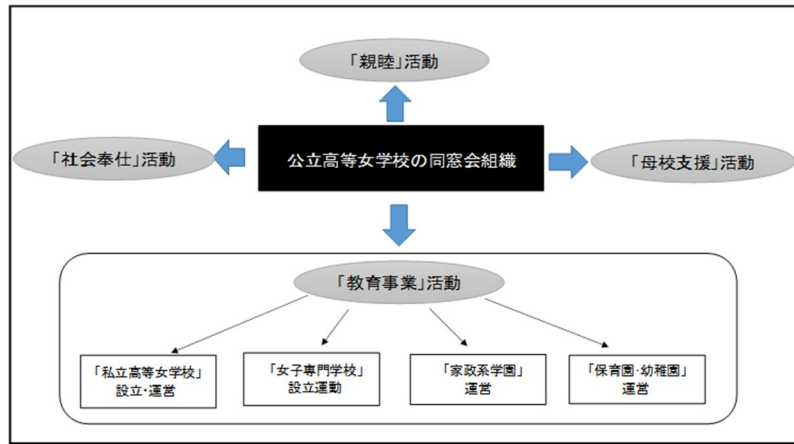
- (1) 「教育事業」活動の実態に関する全国レベルの基礎的資料を作成するため、公立名門高等女学校の流れをくむ全国各地の高校の学校史と国立公文書館所蔵の学校設置・認可申請書等の史料調査を行い、情報の整理を行った。調査対象校を公立名門高等女学校とした理由は、同窓会組織が地域の有力女性団体としてまとまった力を発揮するのは、地域の名門校に限られていたのではないかと予想したからである。そこで基本的には地域で最初に設置された公立高等女学校を調査対象とした。対象時期は、女子専門学校が増え始める1920年代から戦後改革期を経て戦後の教育制度が整う1950年代までに設定した。
- (2) 関西地方を中心に、より詳細な史料収集を行い分析した。対象校は、すでにある程度史料収集が進んでいる和歌山県立和歌山高等女学校(桜映会)と京都府立京都第一高等女学校(鴨沂会)の他、大阪府立大手前高等女学校(金蘭会)、兵庫県立第一神戸高等女学校(欽松会)を予定していたが、調査の過程で大阪府立清水谷高等女学校(清友会)と大阪府立堺高等女学校(愛泉会)を加えた。

4. 研究成果

本研究の成果は以下のとおりである。

- (1) 公立高等女学校の同窓会組織が展開していた「教育事業」活動に関する史料を収集し情報整理を行った結果、「家政系学園」や「幼稚園・保育園」運営が、和歌山県と京都府以外の地域の公立高等女学校でも比較的多くみられたことが確認できた。これらは大都市部と地方都市だけではなく、例えば奈良県高田高等女学校の如蘭会による如蘭学園のように、郡部の高等女学校同窓会が運営する家政系学園の存在も確認できた。

一方、大都市部に限ってはあながち、私立高等女学校の設立・運営を行っていた同窓会組織もあった。例えば、東京府立第一高等女学校の私立鵬友学園高等女学校、大阪府立大手前高等女学校の金蘭会による私立金蘭会高等女学校、大阪府立清水谷高等女学校の清友会による私立清友学園高等女学校、大阪府立堺高等女学校の愛泉会による私立堺愛泉高等女学校などがあった。これらの同窓会のなかには法人格を取得し、社団法人や財団法人として運営を行っていた組織もあった。ただし調査の過程で明らかになったのは、法人格の取得も大都市部の同窓会だけではなかったことである。例えば、奈良県の櫻井高等女学校の藤桜会や大分県の三重高等女学校なども社団法人として運営されていた。



しかしながら、同窓会組織が設立・運営していた学校の多くは第二次大戦後の教育改革期に閉校していた。なかにはある時期まで続いたものもあったが、いずれも閉校あるいは発展的に経営移管や統合しており、現在まで続いている教育機関は、本研究で調査した限りにおいて確認できなかった。

- (2) 上述した戦前から戦後の流れについて和歌山県立和歌山高等女学校の事例を論文にまとめ、次の点が明らかになった。

同窓会組織のトップに位置していたのは校長であり、同窓会経営となっていた「さくら幼稚園」と「桜映学園」を主導的に運営していたのは事実上校長だった。

女子専門学校設立運動を率先していたのも当時の校長だった。設立運動は校長と同窓会員保護者の協力体制で実質上動いており、和歌山高等女学校卒業生たちの主体的な関与は小さかった。

女子高等教育に対する和歌山県の支援が弱く、和歌山大学や県立医科大学の大学昇格のほうに優先された。その結果、私立女子専門学校として開校することになった。それゆえ経営基盤が脆弱で、開校後数年でミッション系女子教育機関に経営移管されるに至った。

- (3) これまで継続的に進めてきた高等女学校卒業生を対象としたインタビュー調査データのうち、学校卒業後の人生や、戦後改革期における同窓会組織の動き、同窓会ネットワークについての語りをまとめたインタビュー資料集を、研究分担者である木村涼子とともに作成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 土田 陽子	4. 巻 39
2. 論文標題 戦後和歌山における私立女子専門学校の設立と経営移管 - 和歌山女子専門学校とその附属校に注目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要	6. 最初と最後の頁 39 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土田 陽子	4. 巻 37
2. 論文標題 地方における高学歴女性のライフコース選択 - 県立和歌山高等女学校の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 土田 陽子
2. 発表標題 女学校研究から見えてきたこと、これから見ようとしていること
3. 学会等名 第17回 教育の歴史社会学コロキウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 片瀬一男・林雄亮・石川由香里・苫米地なつ帆・中澤智恵・針原素子・土田陽子・俣野美咲・羽瀨一代 他3名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 256
3. 書名 「若者の性」白書 第8回 青少年の性行動全国調査報告	

1. 著者名 原清治・山内乾史・小針誠・土田陽子 他7名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 教育社会学 (新しい教職教育講座 教職教育編 3)	

1. 著者名 伏見裕子・古川恵美・川崎那恵・土田陽子・藤根雅之・仲岡しゅん・中山良子・住田一郎・松波めぐみ・片田孫朝日・春日匠・中田裕一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 ふらっとライフ: それぞれの「日常」からみえる社会	

1. 著者名 林雄亮、苔米地なつ帆、俣野美咲、針原素子、土田陽子、片瀬一男、石川由香里	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 青少年の性行動はどう変わってきたか - 全国調査にみる40年	

1. 著者名 加野芳正、北澤毅、有本章、竹内洋、藤田英典、土田陽子 他221名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 896
3. 書名 教育社会学事典	

1. 著者名 小山静子・石岡学・土田陽子・今田絵里香 他6名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 六花出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 男女共学の成立 - 受容の多様性とジェンダー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	木村 涼子 (KIMURA RYOKO) (70224699)	大阪大学・人間科学研究科・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------